

◆ ICT 活用

《学生の臨地実習における ICT の利用》

【実績】 総合看護実習 I の 9 日間の実習期間中、2 箇所の実習施設で各 4 回 ICT を活用した。活用内容としては、学生と教員の二者間での実習状況の確認及び実習内容に関するカンファレンスであった。

【成果】 ICT を活用することにより、遠方での実習においても、教員が実習施設に赴くことなく学生の様子、日程変更や実習状況を逐一確認することが出来た。

なお、今年度は教員、学生、実習指導者の三者間でカンファレンスも検討していたが、実習指導者の時間的都合もあり三者間の活用までにはいたらなかった。三者間のカンファレンスについては、施設や実習指導者の協力が不可欠であるので日程等について事前に検討し調整を行う必要性を痛感した。

【実施上のポイント】

- ・ インターネットを使用しての ICT 活用であるため、ネットワーク環境がきちんと整備されていることが重要である。可能であれば実習施設のネットワークを活用するのが望ましいが、それが難しい場合でも確実にインターネットに接続できる環境が必要である。無線で接続する場合でも、事前に接続を確認すること。
- ・ 実際に活用する際には、実習先で学生が自分自身で操作しなくてはならないため、使用する機器等については事前に説明を行い、使い方の確認を済ませておくこと。

《ICT 報告会の開催》

【実績】 8 月 26 日（土）に ICT 活用報告会を開催した。ICT 活用のこれまでの成果を発表・報告すると共に、実践報告としてリカレント教育で行っている ICT を活用したグループワークを模擬授業として行った。又、パネルディスカッションでは「看護職の”まなび”を広げる ICT 活用の展望」をテーマに、3 名のパネリストから有識者、行政、看護管理者と言う立場からの意見をもとにディスカッションを行った。

【成果】 参加者には ICT を用いた講義がどのように行われているのかを模擬授業を通して体験して頂く事ができた。遠方の施設の参加者からは研修会に時間をかけて参加しなくても ICT の利用により、学ぶ気持があれば直ぐに学ぶことができるのだと感じたという感想もあり、看護教育への ICT 利用の可能性を感じてもらうことができた。

【実施上のポイント】

- ・ ICT を活用する利点やどのように使用しているかを間近で見て、ICT 活用を身近なものとして捉えてもらうために、模擬授業では席を立てて自由に歩き回り見学できるようにした。
- ・ 接続トラブルを回避するために、接続するパソコンは持ち運びせずに固定して使用する。
- ・ 遠隔地からの受講者は会場に映ったスライを、画面共有機能を使用して見るので、講師がスライドを手持のポインターで示しても、遠隔地の受講生の画面には映らない。そのため、そのことを事前に発表者や講師に説明し、パソコン上のポインター機能を使用することの説明を行っておくこと。